

## ネパール訪問

特定非営利活動法人ミランクラブジャパン  
理事長 マナンダール マダーブ ナラエン

昨年末ネパールへ帰国した。中国東方航空の航空券にタメル地区のホテルもセットになっているものだったので、大晦日、お正月とタメルの賑わいの中で過ごした。

ネパールでは西歴の新年は祝わないが、外国人観光客が多いカトマンズやポカラ等の観光地ではクリスマス、大晦日、新年と街はお祭りムードになる。この季節はヒマラヤの山々が綺麗に見え、山好きにはベストシーズンである。カトマンズは朝晩は冷え込むが、乾期なので雨に降られることもなく、日中はポカポカ暖かい。コートもセーターも要らなかつたりする。

この季節、街は観光客でいっぱい、どこへ行っても外国人を見かける。特に中国からの観光客が増えているようだ。ここ最近では私も中国経由でネパールを訪れていて、安くて予約も取りやすい。しかし直行便ではないので、空港で長時間、乗継便待ちをしたり、外に出て翌早朝の出発までホテルに滞在しなければならない。今回乗ったタクシーがホテルを見付けられず、別のタクシーに丸投げされてしまった。何時間タクシーでグルグル回っただろうか。

カトマンズでは観光スポットや観光客が集まる場所にはイルミネーションが飾られ、以前には考えられないほど華やかだった。大晦日は至る所でイベントがあり、どこのホテルにも“ダンス&ディナー”の看板が目立っていた。タメルにいた私は、通りがネパールの若者、外国人で埋め尽くされ、

新年へのカウントダウンを行うというネパールにはなかった光景を目にした。



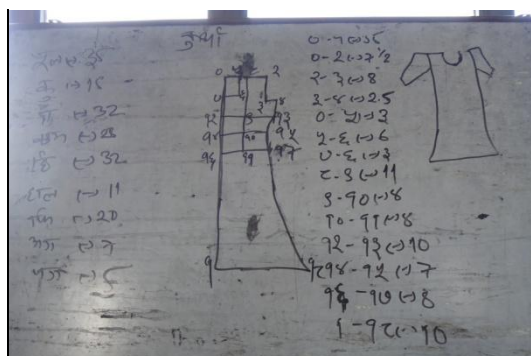
タメルの大晦日

A Happy New Year と挨拶され、夜中まで鳴り止まないバンドミュージックに昔のタメルを思い出していた。

30 数年前のタメル地区は街灯もなく民家が疎らにある程度で、商店もなく夜は真っ暗で人も殆ど通らない地域だった。お化けでも出てきそうな場所に思え、暗くなってからは急ぎ足だった。それというのも私の通った高校が近くで通らざるを得なかったからだ。泥棒が警官に捕まるのを見たこともある。夜はなるべく避けていた。それが今では観光客で溢れ、若者が集まり、ホテルに土産物屋、いろいろな国の料理が食べられる食堂、コンビニのような店、驚くほど様変わりしている。

今回の訪ネの目的の一つに職業訓練所視察があった。12月から始まったミシン職業訓練はドルカ郡ガイリムディ村（カトマンズの北東約 80km）とミランダルマスターリ学園村内の 2ヶ所である。ガイリムディ村

ではリヌ・タマン先生のもと 12月1日から6ヶ月間の予定で当初23名の応募だったが、人気のコースで35名が訓練を始めている。ダルマスタリではカルパナ・バジュラチャルヤ先生のもと15名が12月1日から3ヶ月間、訓練を行っている。



上：ミシン授業風景 下：型紙見本

実際に視察したのはダルマスタリだけであつたが、皆さんの熱心さを見ることができた。将来自立したい希望を持って参加している女性たちは殆ど20代で、ボードに書かれた型紙を基に先生の説明を聞き、布を切ったりミシンを動かしたりしていた。ある訓練生は3ヶ月では足りないので、できたら1年くらいは続けて欲しいと希望した。別の訓練生は仕事に繋がれば嬉しいと話した。

今回ドルカ郡ガイリムディ村からの作品を個人的に買い上げ、日本に持ち帰った。

ダカ織の3枚重ねハンカチ、巾着型小物入れ、エプロン等だ。その他にカトマンズにいる里子が作ったダカ織のハンカチも買って持ち帰った。ハンカチは総会・新年会参加者に配布した。作品は小林理事のひと手間で立派な商品となった。アイロンが掛けられ、紹介のメモと一緒に綺麗なセロハン袋に入れられていた。(下の写真)



昨年初めて成人女性の識字率向上のための教室がラリトプール郡テツオ村で開かれ、教育の機会を逃した10名が3ヶ月間学んだ。ギャヌ・チョリ・マリ先生がネパール語の読み書きや簡単な計算を教えた。



識字教室で学ぶ女性たち(子連れの女性も)

これらは埼玉県国際交流協会の支援を得て実現している。